

自己評価	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教育方法と評価研究及び授業実践研究の推進	①新学習指導要領の全面実施を見据えて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成のために授業の工夫と改善を行い、特に「深い学び」を生み出す授業づくりと「授業研究」のあり方について、学校全体の研究体制を整備して実践研究を進める。 ②本学教員及び他大学の研究者の指導助言を得ながら、授業研究と開発を行い、その成果を研究発表会等で広く地域に発信する。	①授業づくりの視点として、「熟考をとまなう判断」が迫られる課題の設定と協働的で探究的な学習及び振り返りを着実に行うことで、深い学びの成立を目指した。全教科、全教員が計画的に公開授業を行い、全校体制での組織的な授業研究及び協議のあり方に対して教員の共通理解を深めることができた。 ②本学教員及び他大学の研究者の指導助言を得て研究実践を進めたが、11月13日の研究発表会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見合わせた。ただし、研究の概要と研究の成果及び授業の一部をオンラインで公開し、全国の教育関係者に発信することができた。	B	・学校体制で継続的に「深い学び」を生み出す授業改善に努めている。研究体制及び実践内容でも全体での統一が図られ、改善がみられる。 ・京都教育大学や他大学の研究者と連携し、継続的な指導を受けている。	・他校の優れた実践や大学の研究者の指導助言を得ながら、研究授業や研究協議のあり方について改善を重ね、教員が相互に切磋琢磨できる実践研究の風土を校内に築いていく。
(2) 本学、附属学校園との連携・協働、実践研究、教員養成の充実	①プロジェクト研究等の実践的教育研究を大学教員と連携して行う。本校独自の帰国生徒教育や総合的な学習等の特色ある教育活動の充実と発展、及び各教科や領域におけるカリキュラム開発や実践研究を行う。 ②附属幼稚園、附属桃山小学校と「問いを持ち、学び続ける子」の育成を目指して幼小中連携教育研究の充実発展に取り組む。 ③大学、附属桃山小学校及び附属高等学校と協働して、中学校における英語教育の高度化、充実を図り、その成果を研究発表会で公開し、地域に発信する。	①学長裁量経費プロジェクト研究として教科及び本校全体の授業研究のあり方について大学教員との共同研究及び指導助言等を受けて実践を進めることができた。感染症対策として活動が制限される中で帰国生徒学級におけるスピーチ発表や伝統文化体験学習の充実及び本校独自の総合的な学習の講座内容の開発と充実を図ることができた。 ②幼小中の統一主題のもと、大学研究者の指導助言及び講演を受けて各ワーキンググループで授業交流、公開授業、研究協議会を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2月の研究発表会は次年度に延期し、実践の継続と蓄積を行った。 ③大学教員の指導を受けて小中高の英語科教員の指導力向上のために、実践交流を行い、その成果を報告書にまとめた。	B	・大学教員との共同研究プロジェクトにおいて、本校研究における授業改善への指導助言及び本校独自の帰国生徒教育の特色づくりに活かされている。 ・三校園教員による合同研究会を月1回開催し、統一した研究主題のもと教員間交流や実践研究を維持できている。 ・英語教育の指導力向上のために、小中高が連携して合同で定期的に継続的に実践交流を行うことは意義がある。	・今後も本校の研究テーマに沿ったプロジェクトをはじめ、本校の特色ある教育活動の充実につながる教科及び領域において、積極的に大学教員と共同して実践研究に取り組む。

<p>(3) 深く豊かに学び、人として成長できる学校づくり</p>	<p>①質の高い、確かな学力を保障するとともに、「深い学び」を生み出す授業開発と共に、学習規律、学習環境の整備と充実に取り組む。</p> <p>②道徳教育、特別活動等の充実を図り、お互いの人権が尊重され、自己肯定感、自尊感情、規範意識が育まれる学級、学年、全校集団づくりを推進する。</p>	<p>①「熟考をとまなう判断によって生み出す深い学びの研究」をテーマに全教員で授業改善を行い、それを支える学習集団づくりとして、生徒指導部と連携し、生徒会によるベル着運動や環境美化、教室整備等を行った。</p> <p>②道徳の時間や学級活動を中心に人権意識の向上を図るとともに、生徒会主催の学校行事や人権啓発キャンペーンや集会などに積極的に取り組み、達成感のある活動を展開できた。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに沿って、日々授業改善に努めていることが認められる。一方で ICT の活用がまだ限定的で、教科間、教員間で差があり、今後の改善を期待したい。 ・近年、継続的に文科省主催の「いじめ問題子供サミット」に生徒会本部が積極的に参加するなど、生徒会が先頭に立って人権尊重の啓発を積極的に展開していることが認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の行動観察や保護者との懇談、評価アンケート等を通して、生徒の学習状況や生活の実態及び生徒、保護者の要求を適正に客観的に把握し、学校全体として日々の授業改善、教学情報の共有、学習環境の充実と整備を行う。
<p>(4) 校内の危機管理の確立と安心・安全な学校づくり</p>	<p>①日常的に生徒の行動や精神面での様子の掌握に努め、教員間の情報共有と迅速な対応により問題事象の未然防止に努める。また問題事象を確認した場合は、迅速に情報共有を行い、一致した指導方針で解決を図る。</p> <p>②学校安全計画に基づき、避難訓練等を計画的に実施すると共に、生徒及び教職員の防災意識の向上につながるよう、これまでの目的及び内容の見直し、生徒指導方針及びマニュアル等の改善を進める。</p>	<p>①学級担任による全生徒との定期的な教育相談の実施のほか、昼食時間や休み時間中の巡回等で生徒掌握に努めた。また、いじめアンケートや生徒会の人権アンケート等で問題事象を把握し、生徒指導部やいじめ対策委員会、運営委員会等で協議し、保護者と連携して改善を図った。</p> <p>②避難訓練（火災・地震）、不審者対応訓練を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からグラウンドへの避難は見合わせ、避難経路の確認、発生時の対応ポイントについて学級指導を中心に行った。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との教育相談を積極的に実施していることについて、今後も生徒の心理面での継続的なサポートを期待したい。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により十分な避難訓練、不審者対応訓練になりにくい、具体的なイメージを持てるように動画視聴など工夫して、その都度、その意義や必要性について生徒たちに事前に考えさせる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、運営委員会、生徒指導部、いじめ対策委員会の連携のもと、教員間における「報告・連絡・相談」の一層の徹底を図り、日々の生徒の様子の把握を確実に行う。 ・生徒が避難訓練等を自分事として捉え、個々の防災意識を高めることができるよう、避難訓練等の目的や内容を見直し、先進校の実践を参考に、より効果的かつ実効的な方法を工夫する。
<p>(5) 学校と生徒・保護者との信頼関係の構築</p>	<p>①教員間の情報共有と指導の統一及び教員研修の充実を進め、生徒一人ひとりへの指導、支援を丁寧に確実にに行い、保護者との連絡、連携を密に行う。</p> <p>②HP や学校・学年・学級便り及びメール配信等、また懇談会や育友会等を通して、本校の教育活動についてより効果的に情報提供を行う。</p>	<p>①日常の生徒掌握と共に、教育相談、アンケート等で生徒の状況の把握、教員間の情報共有を行うとともに、保護者との日々の電話連絡、保護者懇談等にも丁寧に対応できた。</p> <p>②本校 HP や学校便り、学年通信、学級通信等で学校の教育活動、生徒の頑張り、様子について情報提供を行った。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権を尊重し、事実にもとづき、保護者と連携し、丁寧な対応ができています。 ・新型コロナウイルス感染対策に関わる情報を、早く保護者に連絡していくことが求められる。学校便りを毎月発行するなど、積極的な情報発信がなされている。また、本校ホームページの更新やバージョンアップが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修等を活用し、教員としての資質・能力を高める研修の充実に努める。 ・本校の特色ある教育活動を効果的に伝えると同時に、感染症対策に関わる学校側の対応等、安心安全な学校生活を送れるために適切な情報を早く伝えていく。

自己評価
A 十分達成できた
B 概ね達成できた
C 十分には達成できなかった
D ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善 (中期計画 35)	①大学の実地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。 ②本校での教育実習生に対するオリエンテーション内容の充実を図る。	①実地教育運営委員会や附属学校実習指導研究部会と連携し、感染拡大防止対策を講じながら、実習生への対応、評価のあり方の改善に努めた。 ②従来通り事前教育を複数の教員が多様な視点で分担することで、多面的な生徒理解や中学校実習への心構え等、内容の充実を図ることができた。	A	・学校としての実習指導や実習評価が堅実に行われている。 ・オリエンテーションが丁寧に行われているが、事前・事後を含む大学との連携がいっそう重要である。	・大学の実地教育運営委員会との連携をさらに深め、指導学生の実習時における参観指導を充実させる。
大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究への協力 (中期計画 36)	①大学教員、附属学校園の教員と協働して「附属桃山地区学校園(幼小中)連携教育研究」及び、英語教育の連携研究に取り組む。	①桃山地区附属学校園が協働して大学教員の指導助言を受け、各ワーキンググループで授業交流、公開授業、研究協議会を行い、幼小中連携教育研究に取り組むことができた。 また、小中高の英語科教員の指導力向上のために、大学教員の指導を受けて、附属桃山小学校と附属高等学校と定期的実践交流を行い、その成果を報告書にまとめた。	B	・高校を含めた英語科における小中高の連携研究は他教科では見られない取組であり、貴重である。	・本校独自の教育研究のほか、桃山地区三校園連携、小中高連携による外国語教育研究の充実に向けて、いっそう大学教員との連携を深め、効果的、効率的に取り組む。
地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表 (中期計画 37)	①本学教育創生リージョナルセンター機構との共催、京都府・市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。 ②地域や全国の教育委員会、学校関係者等の学校訪問を積極的に受け入れる。	①新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研究発表会は見合わせる事となったが、研究の概要と研究の成果及び授業の一部をオンラインで公開し、全国の教育関係者に発信することができた。 ②今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により他県や京都府内から教員研修視察及び外国からの教員視察や学生の訪問交流を受け入れることができなかった。	C	・研究成果の発信として、動画による概要説明と授業公開及び本校の実践をふまえての講師の助言等が簡潔にまとめられている。	・京都府・市への広報活動にいっそう努めるとともに、積極的に連携を図り、教育課題の共有や情報交換、実践交流を推進し、公立学校に応用できる実践的な研究を進める。
業務改善及び教職員の働き方に関する取組の推進 (働き方改革)	①部活動のあり方を見直し、部活動運営方針の策定、休養日の明確化とともに教員の業務改善を図る。 ②校務の効率化、適正化に向けた行事活動の見直し、改善、精選を進める。	①部活動顧問として、ガイドラインに沿った部活動のあり方や休養日に対する認識が定着し、教員の業務改善を図れた。 ②新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により行事の見直しが進み、意義及び内容の吟味を行う中で、校務の効率化、適正化を図ることができた。	B	・生徒、保護者の理解を得て、部活動における教員・生徒の休養日を明確化できたことは、一定の成果だと考えられる。	・教職員が心身共に健康で、生徒と関わりを持つ時間を増やせるよう、行事等を見直し、改善、精選を推進する。